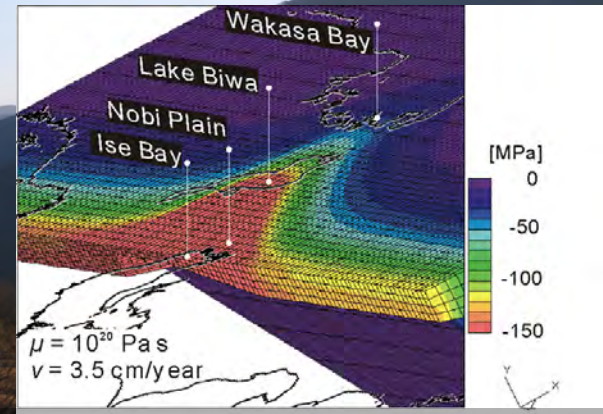


養老断層



養老SA(下り)より工藤撮影

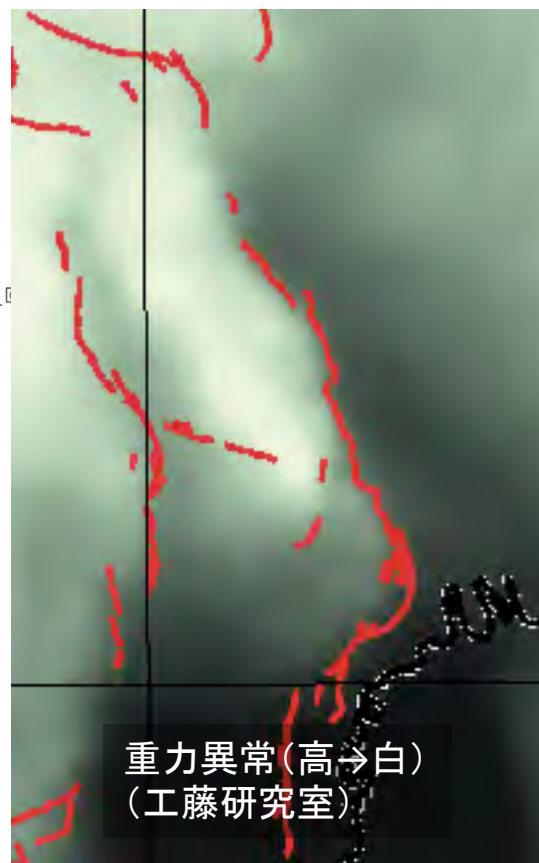


フィリピン海プレートの形状を考慮したマントル流シミュレーション(圧力効果) (Kudo & Yamaoka, 2003)

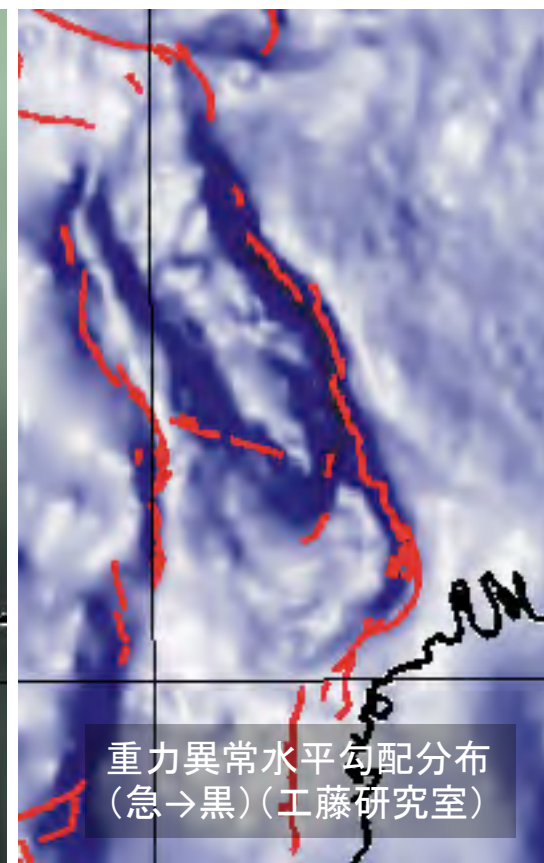
養老—桑名—
四日市断層帯
(政府地震調
査研究推進本
部)



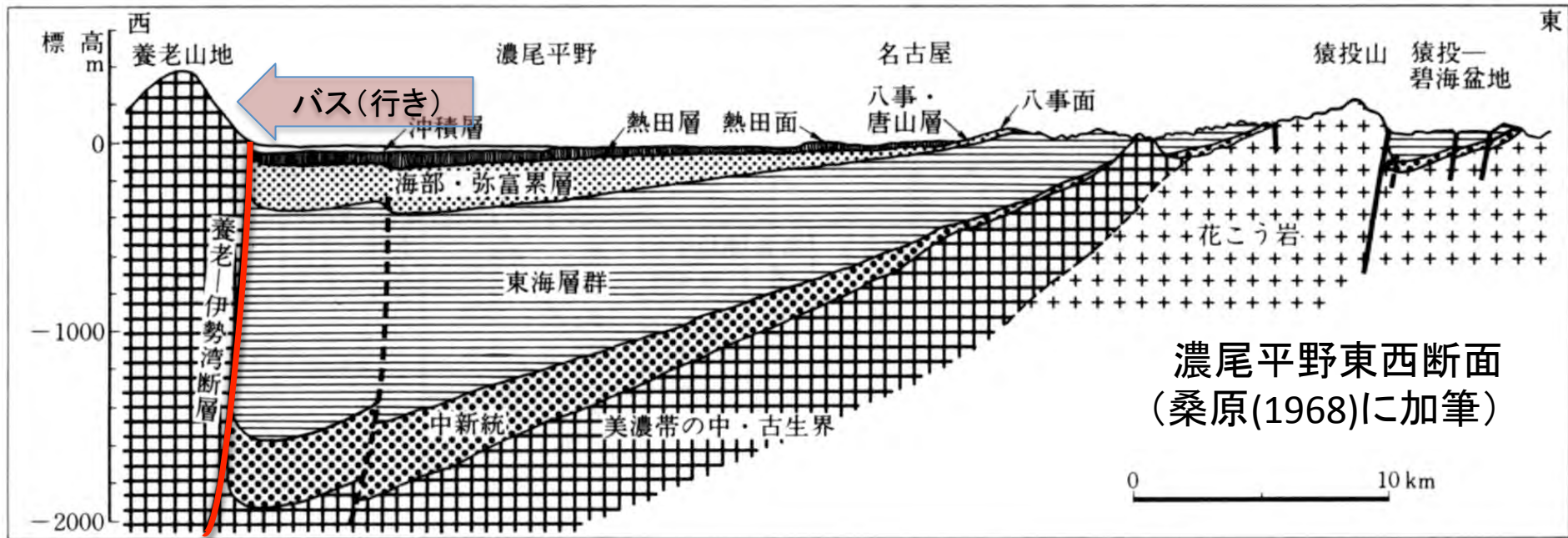
- 1: 志津地点
- 2: 原田地点
- 3: 羽沢地点
- 4: 流上地点
- 5: 大井出地点



重力異常(高→白)
(工藤研究室)



重力異常水平勾配分布
(急→黒)(工藤研究室)



中部大学西方の濃尾平野と養老山地の境界に位置する養老-桑名-四日市断層帯は、地震調査研究推進本部※が重点的に調査を進めている98主要活断層帯のひとつ。1400年～1900年程度の間隔でマグニチュード8程度の地震を繰り返し発生させ、1回の地震で6m程度のずれ(上下)が生じている(今後も!)と推定されている。その結果、断層東側の大地は現在までに2000m下がりながら流れ込んでくる土砂によって濃尾平野を形成。西側は1000m上がり地表が浸食されながら養老山地が形成された。最新の活動は、天正地震(1586年1月)。

※地震調査研究推進本部は、1995年に発生した阪神・淡路大震災をきっかけに、地震に関する調査や研究を政府として一元的に推進するとともに、その成果を社会に伝えるため設置された。中部大学では専門委員として活断層位置形状の特定に協力している。